

第四次答申において示された検討課題に係る対応状況について 【タイヤ騒音規制】

1. タイヤ騒音規制の経緯
2. 第四次報告で示された今後の検討課題
3. タイヤ騒音ラベリングについて
4. R117-02に適合したタイヤへの代替の進捗状況
5. 国際議論の動向について
6. 今後の対応

【参考】R117-02の試験法の概要

1

1. タイヤ騒音規制の経緯

- タイヤ騒音規制は、国連欧州経済委員会自動車基準調和世界フォーラム（以下「UN-ECE/WP29」）において策定された国際基準であるUN Regulation No.117-02Series（以下「R117-02」）の試験法及び規制値が導入されている。
- 規制は、R117の3要件（タイヤ車外騒音、転がり抵抗、ウェットグリップ）を含めた自動車の製作年月日による規制（欧州はタイヤ製作年月日の規制）として、新車からタイヤクラス別に順次適用している。

【タイヤクラス別のR117-02規制値抜粋】

クラス	タイヤ幅 (mm)	規制値(dB)	
		ノーマル	エクストラロード又はレインフォースド又はシビアスノー
C1	$w \leq 185$	70	71
	$185 < w \leq 245$	71	72
	$245 < w \leq 275$	72	73
	$275 < w$	74	75

クラス	タイヤ幅 (mm)	規制値(dB)	
			トラクション
C2	ノーマル	72	73
	スノー	72	73
	シビアスノー	73	75
	スペシャル	74	75
C3	ノーマル	73	75
	スノー	73	75
	シビアスノー	74	76
	スペシャル	75	77

【タイヤクラス別の新車に対する規制適用時期】

	クラスC1(乗用車用)タイヤ	クラスC2(小型商用車用)タイヤ	クラスC3(中・大型商用車用)タイヤ
新型車	平成30年4月1日	令和元年4月1日	令和5年4月1日
継続生産車等	令和4年4月1日	令和6年4月1日	令和8年4月1日

※各クラスにおいてシビアスノータイヤは継続生産車等への適用時期から適用

2

1. タイヤ騒音規制の経緯(続き)

●R117-02に適合するタイヤの市場への早期導入、代替促進策

- ・使用過程車等に対するタイヤ騒音規制の適用については、新車用の適合タイヤを普及することにより、使用過程車用タイヤにも最新技術が導入され、騒音性能適合率の上昇が期待できることから、まずは、R117-02騒音要件適合タイヤの市場への早期導入や代替を促す方策及びタイヤ騒音の情報を公開するタイヤ騒音ラベリングの方策を優先的に進めることが適当である。
- ・タイヤ業界と連携して、R117-02騒音要件適合タイヤの情報をホームページ等に掲載することによりR117-02騒音要件適合タイヤの市場への早期導入や代替を促し、また、タイヤ業界は、自主的な取組として、R117-02騒音要件適合タイヤの表示制度の導入を進めることが適当である。
- ・上記取組については、令和5年(2023年)から開始する。



R117-02騒音要件適合タイヤの表示制度

呼称「低車外音タイヤ」、及びアイコン

※ タイヤ公正競争規約改定に対する消費者庁及び公正取引委員会からの認定を取得した上で実施。

(出典: 日本自動車タイヤ協会HP「低車外音タイヤ表示制度」より)

3

2. 第四次報告で示された今後の検討課題

- ・使用過程車等に対するタイヤ騒音規制の適用に当たっては、R117-02 適合タイヤの代替の進捗状況や更生タイヤの存在を踏まえた検討が必要である。そのため、まずは、令和5年(2023年)から開始することが適当であると示した R117-02 適合タイヤの市場への早期導入や代替を促す方策及びタイヤ騒音の情報を公開するタイヤ騒音ラベリングの方策の更なる推進を進めるとともに、R117-02 適合タイヤの代替の進捗状況等を継続的に把握しつつ、必要に応じて、使用過程車等に対するタイヤ騒音許容限度目標値の適用時期の検討を行うこととする。なお、その場合にあっては、継続検査等においてタイヤの R117-02 への適合性を確認する必要があることから、自動車ユーザー、販売関係者、整備事業者、検査関係者等への影響調査や周知方法等についてもあわせて検討する。
- ・また、今後、タイヤ騒音規制の見直しに関して検討を進めるに当たっては、UNECE/WP29における次期規制に向けた検討状況やスケジュールを踏まえ、我が国における自動車交通騒音の実態、規制の有効性及び実施の可能性に配慮しつつ、国際基準への調和を図ることについて検討する。

4

3. タイヤ騒音ラベリングについて

- 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会（以下、「JATMA」）でルール作りを行い、令和5年1月より自主的な取組として低車外音タイヤ※のラベリング制度を開始。
 - 各社ホームページやカタログにて低車外音タイヤの呼称やアイコンを掲載。
 - また、JATMAホームページで低車外音タイヤの対象サイズリストを作成、定期的に更新。
- ※R117-02が定める車外騒音基準値を満たすタイヤ

各社カタログにおける呼称・アイコンの掲載例

NEWNO									
品番	商品コード	タイヤサイズ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ
18	PSR08491	235/40R18 95W XL A	●	●	●	●	●	●	●
45	PSR08477	225/45R18 95W XL A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08496	215/45R18 93W XL A	●	●	●	●	●	●	●
50	PSR08481	235/50R18 97V A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08482	225/50R18 95V A	●	●	●	●	●	●	●
55	PSR08484	225/55R18 98V A	●	●	●	●	●	●	●
17	PSR08474	215/45R17 91W XL A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08495	195/45R17 81W A	●	●	●	●	●	●	●
50	PSR08483	225/50R17 94V A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08480	215/50R17 91V A	●	●	●	●	●	●	●
55	PSR08478	225/55R17 97V A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08475	215/55R17 94V A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08494	205/55R17 91V A	●	●	●	●	●	●	●
60	PSR08485	225/60R17 99H A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08476	215/60R17 96H A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08559	195/60R17 90H A	●	●	●	●	●	●	●
45	PSR08493	195/45R16 84V XL A	●	●	●	●	●	●	●
50	PSR08472	195/50R16 88V XL A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08450	165/50R16 75V A	●	●	●	●	●	●	●
55	PSR08456	205/55R16 91V A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08465	195/55R16 87V A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08486	185/55R16 83V A	●	●	●	●	●	●	●
60	PSR08454	215/60R16 95H A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08460	205/60R16 92H A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08464	195/60R16 89H A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08487	185/60R16 86H A	●	●	●	●	●	●	●
	PSR08439	175/60R16 82H A	●	●	●	●	●	●	●
65	PSR08463	215/65R16 98H A	●	●	●	●	●	●	●

（出典：株式会社ブリヂストン
タイヤカタログ2025より）

ENASAVE RV505									
品番	商品コード	タイヤサイズ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ	低車外音 タイヤ
35	●	245/35R20 95W AA b	●	●	●	●	●	●	●
40	●	245/40R20 99W AA b	●	●	●	●	●	●	●
40	●	245/40R19 98W AA b	●	●	●	●	●	●	●
45	●	225/45R19 96W AA b	●	●	●	●	●	●	●
	●	245/45R19 98W AA b	●	●	●	●	●	●	●
55	●	225/55R19 99V AA b	●	●	●	●	●	●	●
45	●	215/45R18 93W AA b	●	●	●	●	●	●	●
	●	225/45R18 95W AA b	●	●	●	●	●	●	●
	●	245/45R18 100W AA b	●	●	●	●	●	●	●

（出典：住友ゴム工業株式会社株式会社 タイヤカタログ2025より）



（出典：横浜ゴム株式会社 タイヤカタログ2025より）

プロセッサー・シーエス・シー
PROXES CF3

低燃費性能とウェット性能を高次元で
バランスした、コンフォートタイヤ。

低燃費性能とウェット性能を
高次元でバランス

スムーズ走り、快適ドライブを実現

環境対応もしっかり
サステナブル素材の採用

（出典：TOYO TIRE株式会社
タイヤカタログ2025より）

（出典：TOYO TIRE株式会社
タイヤカタログ2025より）

4. R117-02に適合したタイヤへの代替の進捗状況

日本自動車タイヤ協会調べ（2025年4月時点）

タイヤ クラス	OE/REP 区分	R117-02 3要件適合 ※1			③ R117-02 騒音要件のみ 適合※6	総計※7 ① + ② + ③
		① 認可マーク有※4	② 認可マーク無※5	① + ②		
C1 (乗用車用) タイヤ	OE ※2	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0% (+1.1%)
	純粋REP ※3	52.9%	24.0%	76.9%	10.4%	87.3% (+4.3%)
C2 (小型商用車用) タイヤ	OE (含ユーザー指定)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0% (+3.2%)
	純粋REP (除ユーザー指定)	30.3%	18.4%	48.7%	21.2%	69.8% (-6.4%)
C3 (中・大型商用車用) タイヤ	OE (含ユーザー指定)	31.9%	15.4%	47.3%	31.0%	78.3% (+14.8%)
	純粋REP (除ユーザー指定)	8.3%	10.5%	18.9%	43.3%	62.2% (+5.5%)

※1 「R117-02 3要件」とは、タイヤ車外騒音、転がり抵抗、ウェットグリップ
※2 「OE(Original Equipment)」とは新車時に装着されるタイヤ
※3 「純粋REP(Replacement)」とは使用過程時のみに装着されるタイヤ
※4 R117-02の3要件に適合し、認可を受けてマークが付されたタイヤ
※5 メーカーの社内試験等ではR117-02の3要件に適合しているものの、認可を受けていないため、マークが付されていないタイヤ
※6 メーカーの社内試験等ではR117-02の騒音要件のみに適合しているものの、認可を受けていないため、マークが付されていないタイヤ
※7 ()内の数値は2020年7月時点との変化

・ 使用過程車用タイヤ(純粋REP)の騒音要件適合率は、一部を除き増加傾向。

4. R117-02に適合したタイヤへの代替の進捗状況（続き）

- 各タイヤクラスの使用過程車を対象に、国内複数地域の自動車検査場において、R117-02騒音要件の適合率を確認する調査を実施。

<調査概要>

●調査対象

- 使用過程車が装着するC1タイヤ（乗用車用）、C2タイヤ（小型商用車用）、C3タイヤ（中・大型商用車用） ※C2, C3タイヤは令和6年度のみ調査

●調査地域

- 令和5年度：関東、沖縄、北海道 令和6年度：関東、中部、東北

●調査場所

- 各調査地域の運輸支局の自動車検査場

●調査時期

- 令和5年度：令和6年1月下旬～2月中旬 令和6年度：令和7年1月中旬～2月中旬

●実施方法

- 運輸支局の自動車検査場にて使用過程車が装着しているタイヤ情報を調査
- S2マークの有無または各協会が公開する低車外音タイヤリストよりR117騒音要件適合状況を確認

7

4. R117-02に適合したタイヤへの代替の進捗状況（続き）

- 令和6年度における3地域計の騒音要件適合状況は、タイヤクラス別の適合率はC1で74.3%、C2で66.1%、C3で67.5%であり、規制適用の開始が最も早いC1で最も適合率が高い結果であった。
- C1では、令和5年度の適合率71.9%から微増となる結果であった。

タイヤクラス別のR117-02騒音要件適合率

タイヤ クラス	調査 年度	調査数 ①	騒音要件適合数 ②	騒音要件適合率 ②/①
C1 (乗用車用) タイヤ	R5	683本	491本	71.9%
	R6	982本	730本	74.3%
C2 (小型商用車用) タイヤ	R6	514本	340本	66.1%
C3 (中・大型商用車用) タイヤ	R6	268本	181本	67.5%

※令和5年度調査地域（関東、沖縄、北海道）、令和6年度調査地域（関東、中部、東北）

8

4. R117-02に適合したタイヤへの代替の進捗状況(続き)

- 令和5, 6年度の調査結果では、全国的に日本メーカのシェア率が高く、特に東北、北海道において高い結果であった。
- 騒音要件適合率についても地域別に差がある結果であった。

調査地域別のメーカー別シェア率及びR117-02騒音要件適合率
(左側: 令和6年度調査結果、右側: 令和5年度調査結果)

	メーカー別シェア率	騒音要件適合率		メーカー別シェア率	騒音要件適合率
関東			関東		
日本	75.6%	70.3%	日本	59.1%	72.0%
アジア	5.7%	77.5%	アジア	4.2%	80.0%
アメリカ	5.0%	69.2%	アメリカ	6.2%	54.5%
欧州	13.8%	77.3%	欧州	30.5%	80.7%
中部			沖縄		
日本	76.7%	72.7%	日本	63.1%	73.4%
アジア	5.3%	61.9%	アジア	20.9%	64.5%
アメリカ	6.9%	87.2%	アメリカ	4.0%	66.7%
欧州	11.2%	84.6%	欧州	12.1%	94.4%
東北			北海道		
日本	87.8%	64.3%	日本	87.0%	68.8%
アジア	2.8%	42.9%	アジア	1.7%	33.3%
アメリカ	5.2%	57.9%	アメリカ	6.8%	25.0%
欧州	4.2%	75.0%	欧州	4.5%	87.5%

9

5. 国際議論の動向について

- 令和7年2月のGRBPにて、R117のタイヤ騒音の試験法における測定不確かさの低減を目的とした提案がなされ、新たな会議体を設置し、議論がなされることが合意された。

●第81回GRBP(令和7年2月)の報告(抜粋・仮訳)

19. ETRTOの専門家は、R117のタイヤ騒音の試験方法における測定不確かさの低減についてGRBPに説明した。この議題を進めるためGRBPは、タイヤに関する専門家グループ(GOIE)を設置することに合意した。

※ETRTO：欧州タイヤリム技術機構(European Tyre and Rim Technical Organisation)

6. 今後の対応

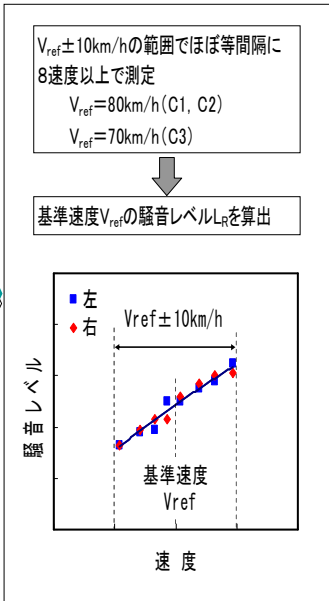
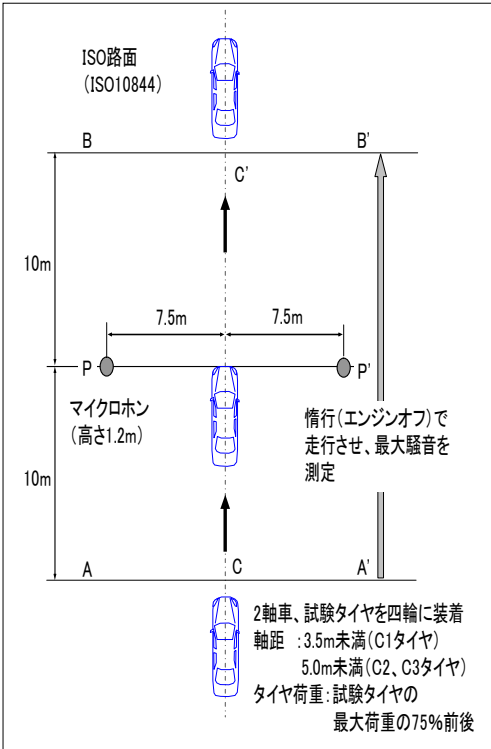
- ・R117-02適合タイヤの代替の進捗状況を継続的に把握することを目的に、令和5、6年度から引き続き、使用過程車が装着するタイヤを対象にR117-02適合状況等のタイヤ情報の調査を行う。
- ・使用過程車等に対するタイヤ騒音規制を適用した場合の自動車交通騒音の低減効果を把握することを目的に、道路交通騒音予測モデルによる効果予測を行う。
- ・国際基準調和の観点から、国際基準の見直し活動に参画し、次期規制値議論の検討状況やスケジュールについて引き続き情報収集等を行う。

11

【参考】R117-02の試験法の概要

＜タイヤ騒音＞

試験自動車を騒音測定区間の十分前から走行させ、一定地点からエンジンを停止し、惰行走行させた時の騒音測定区間における最大騒音値を基準速度 (V_{ref}) ± 10 km/h の範囲でほぼ等間隔に8速度以上で測定する。



クラス	タイヤ幅 (mm)	規制値(dB)	
		ノーマル	エクストラロード又はレインフォースド又はシビアスノー
C1	$w \leq 185$	70	71
	$185 < w \leq 245$	71	72
	$245 < w \leq 275$	72	73
	$275 < w$	74	75

クラス	タイヤ幅 (mm)	規制値(dB)	
			トラクション
C2	ノーマル	72	73
	スノー	72	73
	シビアスノー	73	75
	スペシャル	74	75
C3	ノーマル	73	75
	スノー	73	75
	シビアスノー	74	76
	スペシャル	75	77

12